

住民の会だより

No. 13 2025年10月15日発行

リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会

代表世話人 熊谷清人 大坪勇 北林強

連絡先 090-1865-8868 (北林)

協力：国際環境NGO FoE Japan 本活動はパタゴニア
環境助成プログラムの支援を受けています。



ほとんど更地になった駅周辺。静岡工区が着工して10年で開業といっても、静岡工区の着工の時期もはっきりしないのが現実です。駅周辺の最近の様子です。

写真上左。土曾川橋りょうの2本目の橋脚の基礎の鉄骨を組んでいます。JR東海は、来年夏ころからヒ素など有害なものを含む残土を入れる計画です。**写真上右**は、県道市場桜町線そばの基礎工事。穴の中に水が湧き出てポンプで排水をしています。この地域の地下には地下水が流れていることは明らかで、地下に有害なものを置くべきでないです。

リニア駅周辺では、多数の方が移転となりました。さらに工事で生活の不便が続いています。。9月16日から、地区の南と北を結ぶ市道33号線の通行ができなくなりました。工事中だけでなく、この道路は付け替えで山側に迂回するので急な坂もでき、高齢者にとっては困ったことです。

飯田市は外環道の陥没事故を受けて市道の下有空洞の調査する中で、宮ノ上で風越山トンネルの上部に当たる場所の空洞のあった市道を修繕しました。地下水が減るとか地盤の変化とか、地下でトンネル工事が行われることは心配です。

アメリカ東部のリニア計画が中止に

JR東海が進めていた、アメリカの首都ワシントンとボルチモア市間の約65kmを結ぶ超伝導リニア計画は、米連邦鉄道局が、環境影響評価の準備書の段階で5年間中断していた手続をやめると7月31日に公表し、事実上失敗しました。リニアの海外展開の見通しはなくなりました。

原因は、環境への悪影響のほか、沿線にある複数の政府機関が建設に批判的だったこと、ボルチモア市など複数の自治体が建設反対の意見を表明したこと、既存の鉄道路線の改修に多額の費用が必要なことなどです。ボルチモア市は、多くの市民が利用している既存の鉄道が使えなくなるなど、市民は建設工事で迷惑を受けるのに、リニアを利用する市民は限られるのだから、**公平性を欠く**と指摘しています。建設が決まっていたテキサス新幹線が着工できていないことが最近明らかになりました。民間資金が集まらないことが原因です。**ペイしない事業**には資金は集まらない。アメリカのリニア計画も資金調達の問題で近い将来に失敗する可能性があったと思います。



七久里の谷の自然観察会 ～リニア残土の埋め立て予定地～

阿智村と飯田市山本の2つの谷にリニアのトンネル残土を埋め立てる計画があります。すぐれた自然が残り様々の植物が見れるとのことで、8月20日、伊那谷自然友の会の観察会に参加。阿智村の七久里の計画地を見学しました。また、9月には、同じく残土を埋め立てる、北どなりの飯田市の山本IC産業団地予定地を訪れました。

七久里の谷は、手入の行き届いた水田と周囲の林と、素晴らしい環境の場所でした。案内はハナノキ湿地の保護活動を長年なさってきた所沢さん。数歩歩くごとに見つかる草花について話を聞きながら道路沿いに散策をしました。今回の目玉はサワギキョウでした。

山本IC産業団地予定地は、地形的には同じようなような場所でしたが、耕作放棄地が目立ちました。

七久里には約100万 m^3 、山本には約70～80万 m^3 の残土を埋める計画です。七久里は埋めた後、どう活用するのかは決まっていないし、山本はどんな企業がくるのでしょうか。こんな気持ちの良い場所を残して活かすことで地域を豊かにできないものかと思いました。



左：シロバナサワギキョウ 右：ミカワバイケイソウ(5月撮影) 所澤さん提供

阿智村七久里 リニア工事残土埋め立て計画地の
「ハナノキと絶滅危惧種の自生地 花畑湿地」は
伊那谷から世界に誇る優れた自然環境です。
埋め立てから回避し保全しましょう。

＜七久里のハナノキ＞

はなのき友の会は七久里の「ハナノキと絶滅危惧種の花畑湿地の保全」を願って要望書を3回 阿智村村長、長野県知事あてに提出しました。

(2024年9月9日、12月19日、2025年3月18日)

その都度、阿智村、県と「ハナノキと絶滅危惧種の自生地 花畑湿地の保全」をめぐって話し合いを続けて来ました。

七久里リニア残土埋め立て地は100万 m^3 の残土を広さ11.2haに埋め立てる予定です。

その中には今分かっているだけでも長野県絶滅危惧植物が14種。(2014年長野県版レッドリスト参考) 内訳はレベルの高い方から、1A.が3種、1B.が3種、II類が5種、準絶滅が3種もあります。

それらの絶滅危惧植物は約400 m^2 の花畑湿地に集中して生育しています。また、そこにはかつて伊那谷の水田の周りの憧れの植物たちが沢山生育しています。希少さと多様性に満ち、下伊那で他に見ることが出来ない湧水湿地です

七久里には「東海丘陵要素植物」ハナノキ、ミカワバイケイソウ、フモトミズナラの3種が自生しています。

それらは、かつて伊那谷が平であった頃、中部・東海地方に数百万年にわたって湧水湿地群が高密度に形成され、その中で遺った貴重な植物たちです。

湧水は一年を通し比較的一定の水温を保ち、穏やかな環境を維持します。湧水湿地群の中で氷河期、間氷期を経ても遺った植物群15種を「東海丘陵要素植物群」と呼んでいます。それらの植物は遺存種、地域固有種、絶滅危惧種で注目されています。

この歴史的な湧水湿地群は長野県では極めて稀で主に七久里周辺(駒場盆地)だけに奇跡的に遺っています。

湧水湿地群の穏やかな環境は、数百万年もの間様々な植物を遺しました。

このような環境こそ昨今の温暖化、猛暑、ゲリラ豪雨、大地の富栄養化等に対し、人にも優しい環境と言えるでしょう。ハナノキ湿地の中心地七久里の「ハナノキと絶滅危惧植物の花畑湿地」は私たちが豊かな暮らしをするために大切に、伊那谷から世界に誇れる環境です。

はなのき友の会 所沢 あさ子



水源地に有害残土！ JR 東海、豊丘村で計画

多くの住民が反対したのに、JR 東海は土曽川橋りょう工事で有害残土を使いました。こんどは豊丘村の飲み水の水源地にヒ素などが混ざった有害残土を置こうとしています。

その場所は、本山(ほんやま)。ここはもともと有害物を含まないトンネル残土 130 万 m³ を谷埋め盛土にして置く計画でした。JR 東海は有害残土は置かないと説明していました。ところが、最近になって、ヒ素などを含む有害残土も置きたいと言い出しました。その量 1 万 5 千 m³。5 月下旬、村民対象の説明会を開き計画を説明しました。

豊丘村民は、飲み水のほとんどを地下水にたよっています。村営水道も地下水を汲み上げています。山に降った雨は地中にしみて地下水になって、地中を流れて里へと流れて行きます。だから、残土を置く谷は、もとは水源涵養保安林の指定もありました。

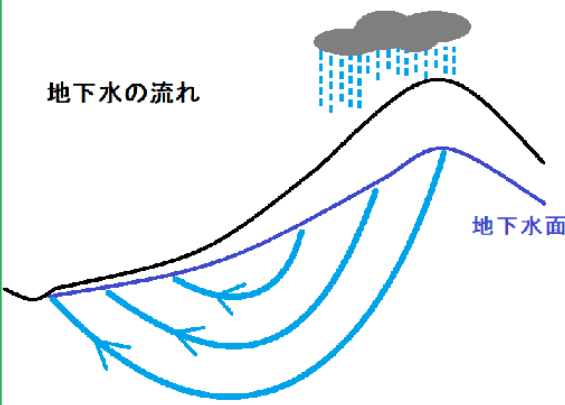
JR 東海は、残土の不溶化处理だとか、シートにくるむなどの対策をするから安全だと説明しました。しかし、表面だけの不溶化处理は、埋め立てる時に石が割れて処理できていないところがでてくるし、シートが何百年も持つはずはありません。村民の暮らしは子々孫々何百年も続いていきます。いつかは必ずヒ素などが漏れます。漏れたヒ素は飲み水を汚染します。飲み続けて健康被害がわかるまでに時間がかかることも怖い点です。

当分は大丈夫と思う人もいるかも知れません。しかし住民が求めるのはいつまでも安全な水が飲めることです。

地権者である本山地縁団体は総会を開いて受け入れを決めました。しかし、村民有志の「豊丘村の水を守る会」がこの計画をやめさせようと頑張っています。反対の署名は、本山地縁団体の総会の賛成数を上回っています。多くの村民が命の水の問題として心配していることは明らかです。

「豊丘村の水を守る会」は以下のような学習会を計画しています。

また署名の輪を広げようとしています。



地下水の流れ

地下水面

学習会のお知らせ

地下水の水源地を考える

豊丘村の水道水の 96% は地下水が水源です。
今も これからも ずっととよおか
皆さんで私たちの水について考えましょう！

10 月 25 日(土) 13:30~16:00 (13:00 開場・受付開始)

会場: 豊丘村交流学習センター ゆめあるて 第 1・2 研修室。参加費なし。

講師: 桂川雅信さん (技術士・環境カウンセラー。中川村在住、現在、日本科学者会議長野県支部幹事)